

◆令丈ヒロ子先生おすすめのお話十冊◆

～「友だち」をテーマに選んでみました。～

① 「紳士とオバケ氏」

たかどのほうこ／作 （フレーベル館）

まじめな紳士マジヒコ氏の家には、マジヒコ氏そっくりのオバケが住んでいた。文通から始まった礼儀正しい二人の紳士的な友情がどんどん深まっていき、ついには……。低学年から大人まで、とにかく笑えます。

② 「妖怪アパートの幽雅な日常（全十巻）」

香月日輪／作 （講談社）

十三歳で両親を失った夕士が住んだ、まかないつきアパート寿荘は、人間くさい妖怪と、妖怪をしのぐすごい人間の巣窟。妖怪アパートで学び、修業し、おいしいもの毎日食べ、親友長谷くんの友愛に支えられながら成長する、夕士の姿が感動です。

③ 「引き出しの中の家」

朽木祥／作 （ポプラ社）

花を明るく照らし、植物にみずみずしいのちをあたえる不思議な小人、「花明り」。花明りと、友情をはぐくむ少女たち。小人のための小さな家作り、小人といっしょに作るおいしいお菓子、見ると必ずいいことがあるという小さな小さな青い鳥……。きれいな夢がいっぱいつまった宝箱のような一冊です。

④ 「うたうとは小さいのちひろいあげ」

村上しいこ／作 （講談社）

思いがけず高校で短歌を詠む「うた部」に入った桃子。「うた部」は楽しいが、桃子には不登校になった親友綾美のところに通うという日常があった。徐々にあきらかになる、二人の過去。そして短歌甲子園への出場。勝ち抜く「うた」といっしょに女子同士のもつれた友情の糸が、じょじょにほぐれていくさまに、手に汗握ります。

⑤ 「夜明けの落語」

みうらかれん／作 （講談社）

人前でしゃべるのが苦手な四年生の暁音は、しゃべるのが上手で明るい三島くんがやってくれた「落語」に魅せられます。いいたいことがいつもうまく言えない暁音が落語にとりくむことで、友だちと気持ちを通い合わせることができ、友だちを笑顔にできるようになります。暁音の不器用な「ことば」との格闘ぶりが胸をうちます。

（うらに続く）

⑥ 「モッキンバード」

キャスリン・アースキン／作 （明石書店）

アメリカの小さな町で起きた銃乱射事件で、アスペルガー症候群の少女、ケイトリンは大好きだった兄を失います。他人の気持ちを感じとれない、そしてうまく自分の悲しみを表せないケイトリンの姿が、人間関係に悩む人は、自分に重なり、切なくなるのではないのでしょうか。

⑦ 「リアル・ファッション」

ソフィア・ベネット／作 （小学館）

ファッション大好きなロンドンに住む少女ノニー。ある日出会った少女クロウの天才的なデザインの才能にひらめきます。クロウの服で世界を変えられる！ クロウの服を有名にするために、ノニーはファッションビジネスの世界に飛び込みます。華やかで小気味よい、前向き少女たちの熱い友情サクセスストーリーです。

⑧ 「WONDER ワンダー」

R・J・パラシオ／作 （ほるぷ出版）

生まれつき顔に「異常がある」オギー。家族に守られてくらしていたオギーが学校に上がる日が来ました。オギーの顔にとまどうクラスメイトたち。少しずつクラスになじみ、心からの友だちができたと思ったら……。オギー自身と、周囲の人たちがいっしょに傷つきながら、手探りで、一段一段階段を上って、ついにはみんなで明るい空を見上げる日が来ます。

⑨ 「トムは真夜中の庭で」

フィリパ・ピアス／作 （岩波少年少女文庫）

真夜中に古時計が十三の時をうつとき、トムはふしぎな少女ハティと出会い、友だちになります。ハティは過去から来た幽霊？ しかしハティは現れるたびに、どんどん大人になっていきます。二人が最後に出会った時、とうとうおたがいの正体がわかります。時間をこえ性別も年齢もこえた、人間同士の絆に感動します。

⑩ 「あのころはフリードリヒがいた」

ハンス・ペーター・リヒター／作 （岩波少年少女文庫）

ヒトラー政権下のドイツ。同じアパートに住むフリードリヒとぼくは友だちだった。しかしユダヤ人であるフリードリヒ一家は住居を追われ、仕事を奪われ、徐々に迫害されていく。最後までフリードリヒを助けたいと願うぼくだったが……。戦時下の友情の悲劇が、静かな筆致で描かれています。